

河原地域未来プラン

～にぎわいのある子育てのしやすいまち
河原町～



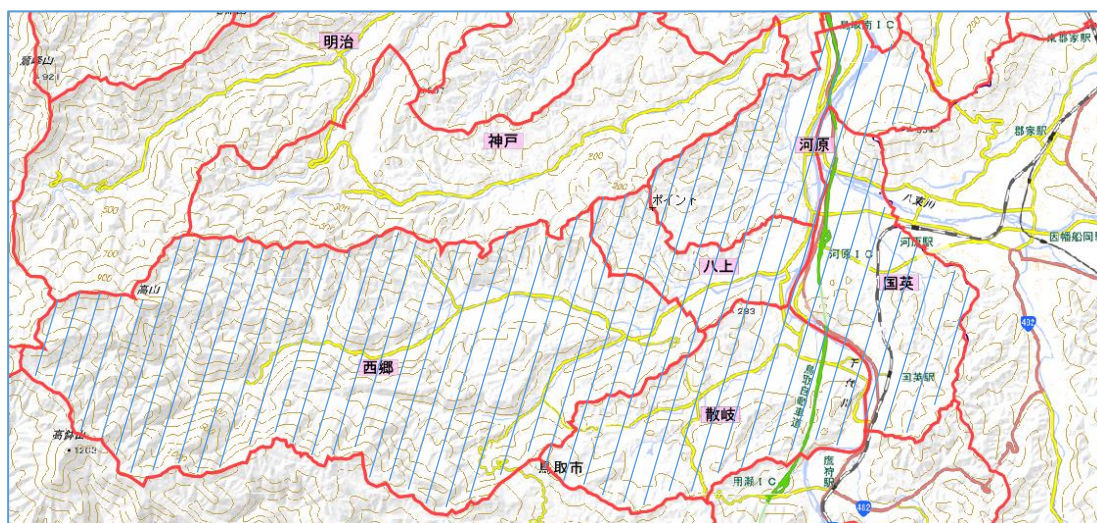
令和7年1月

河原町総合支所

目 次

- 1 目的、位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1
- 2 地域の現況：位置・土地利用等、人口・・・・・・・・P 1～2
- 3 地域の特性・資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2～4
 - ・ 歴史
 - ・ 特性
 - ・ 資源
- 4 地域の現状とプランの柱、めざす将来像・・・・・・・・P5～7
 - ① 安心して暮らせるまちづくり
 - ②子育てがしやすいまちづくり
 - ③観光振興等に伴う交流人口の増
 - ④持続可能で賑わいのある地域づくり
- 5 めざす将来像 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7

★河原町内 5 地区位置図



1. 目的位置づけ

本市の総合計画や創生総合戦略、市政改革プランなど他の計画との整合性を図りながら、地域の資源や人材を活かして地域特有の課題に対処していくことで、もって河原地域の地域振興や持続可能で住みやすいまちをめざすことを目的としてプランを作成するもの

2. 地域の現況

●位置、地勢について

鳥取市の南部に位置し、面積は約84平方kmで鳥取市全体の約11%を占めている。

●土地利用について

約67%が山地、約33%が平地となっており、そのうち約20haで田・畑・果樹園として利用されている。

●人口について

- ・人口は、平成16年の合併時は8,358人

令和6年12月31日現在 6,191人 増減率約25.9%減（対H16合併時）

- ・世帯数は、平成16年の合併時は2,380世帯

令和6年12月31日現在 2494世帯 増減率は約4.8%増（対H16合併時）

- ・高齢化率（65歳以上人口）は令和6年12月31日現在約40.5%

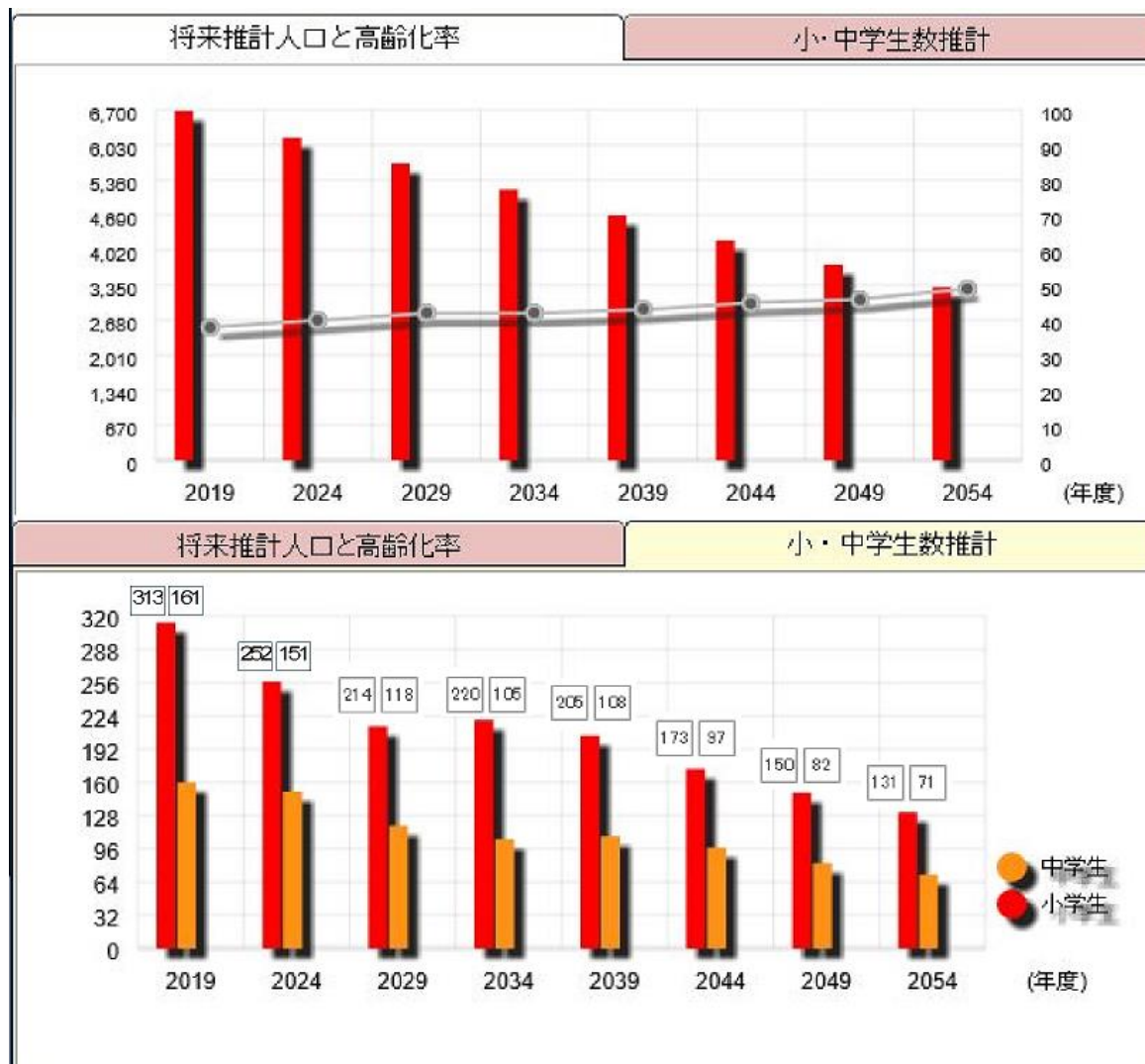
- ・町内の社会的動態（転出入推移）（単位：人）

年度	転入			転出		
	県外	県内	転入計	県外	県内	転出計
H元			200			247
H15			196			247
H29	56	107	163	68	140	208
H30	70	130	200	68	130	198
R1	43	96	139	62	152	214
R2	44	131	175	50	141	191
R3	38	125	163	64	119	183
R4	50	125	175	67	126	193
R5	49	101	150	61	102	163



【河原町総合支所】

・町人口将来推計



※鳥取県「集落創造シート」を活用

3. 地域の特性・資源

●歴史

河原町は、古事記に日本最古の恋物語「八上姫神話」が記されていることから分かれるとおり、古代より因幡国八上郡の中心として栄えた地域で、美しい山野に囲まれた、豊かな緑と清らかな千代川の流れに沿って平野が広がり、産業・経済・文化等幅広く発展してきました。

昭和30年3月、河原町・国英村・八上村・散岐村・西郷村の5つの町村が合併し新たな「河原町」が誕生しました。

町名は、千代川と八東川の合流点の広い河原の上にできた町であり、中洲であり、磧（かわら）であったことからつけられたとされています。

●特性

①鳥取県東部圏域の中央に位置し、河川・道路の主要な結節点であり、特に河原インター付近の「道の駅清流茶屋かわはら」と河原インター山手工業団地、新可燃物処理施設リンピアいなば、鳥取南インター付近の鳥取南インター布袋工業団地などの整備に伴い、本市が発展する上での要所となっています。

②農林水産業は、稲作、果樹栽培が中心ですが、その他に畜産・原木椎茸栽培（乾燥椎茸含む）も盛んです。また、千代川では「アユの町・かわはら」として、釣り人などの誘客につながっています。

③文化人としては、物理学者・教育者「村岡範為馳」、医師で漂泊の詩人「伊良子清白」、郷土の歌人「田中寒樓」など多くの先人を輩出している他、陶芸、ガラス工芸、木工芸、皮工芸などの作家が活動しており、工芸の郷づくりが進められています。また、代表的な歴史遺産としては、古墳時代中期に築造された嶽古墳（全長 50m）や中井 1 号墳（全長 60m）、平安時代に作られた観音寺の木造勢至菩薩立像、大義寺にある戦国時代の雄将武田高信の墓、羽柴秀吉の感状と禁制、江戸時代の大庄屋であった木下家住宅などがあります。

また、天然記念物では、県内一の巨木である県指定の落河内のカツラ、県指定の長瀬の大シダレザクラ、弓河内の大シダレザクラ、市指定の三谷神社のシダレザクラ、国英神社の大イチョウなど、見所が多数です。

④河原の旧道は、上方往来として鳥取から河原・智頭を通り、志戸坂峠を越えて山陽道・大阪・京都へ至る鳥取藩の参勤交代にも利用された重要な街道で、当時の河原村は旅人の休憩所である茶屋があったことから「上の茶屋」と呼ばれてにぎわいました。

●資源

区 分	主なもの
特 産 品	梨、柿、しいたけ、鮎料理、陶芸（牛ノ戸焼、因州・中井窯、やなせ窯、花輪窯、陶工房彩白、三々窯）、ガラス工芸、木工芸、皮工芸、いなば和牛
観 光	道の駅清流茶屋かわはら、お城山展望台「河原城」、三滝溪、湯谷温泉、霊石山
イベント	あゆ祭、河原城イベント（春の大茶会・中秋の月見会・元旦初日の出）、霊石山フライトフェスティバル、河原歴史民俗資料館民俗行事伝承（七草がゆと鳥追い、釜やきほか）、西郷工芸祭り

~~~~~地域の宝~~~~~



三滝溪



賣沼神社



落河内の大カツラ



河原城



霊石山



御子岩

大しだれ桜



弓河内



長瀬



三谷



西郷工芸の郷ギャラリー

#### 4. 地域の現状とプランの柱、めざす将来像

##### 地域の現状と課題

##### ① 安心して暮らせるまちづくり

- 子どもたちの安全な暮らしを脅かす事象の発生をきっかけに、平成 19 年度より、官民協働で「自分たちのまちは自分たちで守る」をスローガンに掲げ、「青色防犯パトロール」を開始しました。市民の防犯意識の向上と犯罪・不審者の発生を抑制し、児童・生徒はもとより、地域住民が安心して暮らせるよう、これらの取組を継続するとともに詐欺をはじめとした犯罪に巻き込まれないよう未然に防ぐ周知・広報も必要です。
- 町全体で年々増えつつある空き家対策を推進し、空き家の適正な管理を図り犯罪の温床にならないよう未然に防ぐとともに、崩落や倒壊の可能性のある危険家屋についても所有者への啓発を図っていくことが必要です。
- 年々、激甚化しつつある自然災害に対し、日ごろからの備えが最も重要な災害対策です。それに伴い自主防災会の果たす役割も年々大きな期待が持たれているところです。そこで自助公助の取り組みの一環として、自主避難所の設置や避難行動要支援者の支援など自主防災会の組織維持や強化をはかっていく必要があります。また、防災リーダー・指導員の人材養成、支え愛マップの作製の促進を図ることも必要です。さらには行政側からの防災情報の迅速な伝達はもちろんのこと、様々な手段で防災情報を周知していく必要があります。

##### ②子育てがしやすいまちづくり

- 子育てしやすい環境づくりとして、地域の中で支え見守っていける環境づくりと支援体制の充実を図るため、河原中学校学校運営協議会や民生児童委員と連携し、通学路の見守りや点検、あいさつ運動などを行い、登下校の安全をしっかりと図っていくことが必要です。
- 地域住民と小・中学校 PTA 及び河原町の児童・生徒が協同して開催する「河原町の未来を語る会」の継続実施を支援し、河原町の未来についてそれぞれの立場で意見を出し合い、児童・生徒の健全育成やふるさとへの愛着心の涵養を図っていくことが必要です。
- 現在、町内 3 小学校と中学校を含めた今後のあり方が検討されています。子供の教育環境や地域の維持・活性化にとって最良のあり方を地域の方や保護者、学校をはじめ町民全体で丁寧で活発な議論が展開される必要があります。

### ③観光振興等に伴う交流人口の増

○河原町のまち並みを展望できるお城山展望台「河原城」、古くから湯治場として有名な「湯谷温泉」、自然豊かで四季を通じて彩りが楽しめる「三滝溪」、山陰海岸ジオパークエリアで、パラグライダー等の盛んな「霊石山」、大国主命の妻となった八上姫を祀る「売沼神社」など、魅力ある観光資源を活用し、交流人口の増加につなげることが求められています。さらには年間約150万人（コロナ期間前）が利用する「道の駅清流茶屋かわはら」を情報発信の拠点として、観光振興と交流人口の増加に向けて戦略的な連携を図るとともに、観光地の景勝維持（霊石山保全活動、三滝溪周辺保全活動など）を通じて来訪者をおもてなしの精神でお出迎えすることも必要です。

○季節に応じた町内の多様なスポットをSNS等により、魅力発信していく必要があります。

### ④持続可能で賑わいのある地域づくり

○現在、河原町内では2地域において地元住民主体の地域交通が運行されており、高齢者の通院・買い物時に、また小・中学生の安全な通学に大きく役立っています。今後とも持続可能な仕組みを維持するために、運転手の確保策・利便性や柔軟性の高いダイヤの変更、効率・適確な事務処理（及び事務集約の検討等）、利用促進策など不断の取り組みが必要です。

○住民同士の支えあいやコミュニケーション、高齢者世帯の見守りのため、自治会やまちづくり協議会、地区公民館等といったコミュニティ組織の維持及び活性化を図ることが必要です。今後も少子高齢化が一層進行していくことが予想される中、これら組織運営への支援をはじめ、組織の簡素化・一本化・合理化やNPO化の検討なども考えていく必要があります。

○河原町コミュニティセンターの建て替えに併せて、人権福祉センターや社会福祉協議会などの周辺公共施設との複合化を着実に進め、人権教育や社会福祉活動をより一層充実させるとともに、地域に古くから存在する獅子舞や手踊り等の伝統文化・民俗行事を次世代に継承し、地域の賑わいやつながりを維持するための施設として、長期に安心して利用できるようにすることが必要です。

○町内中心部には大規模スーパーが存在するものの、周辺部では小売店が減少しており、高齢者のみの世帯をはじめとしたいわゆる買い物難民の方が存在しています。今後も買い物環境の確保のため、移動販売網の充実をはじめ、インターネット（もしくはCATV）を活用した購入制度の支援も検討していく必要もあります。

○民泊・グリーンツーリズムなどの体験交流の拡充やいなば西郷むらづくり協議会が推進している「いなば西郷工芸の郷」を支援するほか、河原町全域に取り組みを拡げて移住定住を進めていくことも必要です。そのため、移住希望者（UJI ターン、田舎暮らし希望者、二地域居住）や関係人口（テレワーク、ワーケーション等）など多様なニーズに対応するため、空き家の利活用を促進し、受け皿を確保したり、お試し住宅の再設置の必要性も検討する必要があります。

#### めざす将来像

「誇りと希望・ぬくもりのあるまちを目指して」

河原町は、古代因幡における国づくり発祥の地ともいわれる「八上郡」の中心地であり、このような歴史を背景に本市南部地域の中にあっても、気象、地形等の恵まれた自然条件と河川・道路の主要な結節点をなす立地条件を基に、地域産業や農業で主要な役割を果たしてきました。

鳥取自動車道、河原インター山手工業団地・鳥取南インター布袋工業団地を有し、「本市の企業誘致の拠点」としての役割が発揮されています。また、近年、商業施設の集積や宅地分譲の進展などがみられる一方で、公共交通の撤退や少子高齢化等による生活基盤の維持が危惧されるところです。

今後の河原町の持続的発展のために、3つの理念を掲げ推進します。

#### 一. 人や地域が「誇り」をもてるまちづくり

森林・河川などの豊かな自然や農地を守り、育て、歴史・文化・伝統を大切にしていくとともに次世代へ継承できるまちづくりを進めます。

#### 一. 未来に広がる「希望」のあるまちづくり

子どもたちが学校、家庭、地域の中でのびのびと育ち、故郷への愛着心を育てていくとともに、子供も大人も安心して暮らせる「いつまでも暮らしたい」「住んでよかった」と感じる希望のもてるまちづくりを進めます。

#### 一. みんなが支え合う「ぬくもり」のあるまちづくり

持続可能で安全・安心な暮らしができるよう、福祉・地域交通・防災防犯の充実を図ります。また、住民、地域団体、行政がそれぞれの役割を担い、連携を図っていくことにより、みんなで支え合い、一人ひとりが大切にされる、ぬくもりのあるまちづくりを進めます。

このプランは、実施計画を作成し、地域振興未来会議で進捗管理します。  
なお、本プランは原則、5年ごとに見直していくものとします。